

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

様式1（特別支援学校）

|               |  |
|---------------|--|
| 学校名           | 佐賀県立伊万里特別支援学校  |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容8項目のうち、最終結果でのAは6項目、Bは2項目であった。目指したところの達成はできているかと思われる。Bの評価をつけた「効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実」については、年度当初の説明と途中の研修だけでなく、啓発活動とともに、より多くの職員が関わるような取り組みを行っていく必要があると思われる。また、「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」についてもあらゆる手立てを構築し、取り組みを継続していく必要がある。</li> <li>次年度も現在の取り組みを継続しながらよりよい学校生活の提供、職員の専門性の向上を図っていきたい。</li> </ul> |
| 2 学校教育目標      | 将来の社会生活を据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。  |
| 3 本年度の重点目標    | <ol style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。</li> <li>健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。</li> <li>進路指導の充実と併し、キャリア教育の実践を積み重ねて卒後の自立的な社会生活を旨とする。</li> <li>児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元氣よく」「たくましく」生きる力を育む。</li> </ol>  |

|               |        |
|---------------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|

| (1)共通評価項目            |        |  |  | 最終評価   |   | 学校関係者評価   |  |  |
|----------------------|--------|--|--|--|---|---|--|--|
| 評価項目                 | 重点取組   | 取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   | 具体的取組  | 達成度<br>(評価)   | 実施結果  | 評価   | 意見や提言  |
|                      |        |  |  |  | 達成度<br>(評価)   | 実施結果  | 評価   | 意見や提言  |
| ●学力の向上               |        | ●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による自立を目指す力の定着  | ○自分の子どもにできることが増えたと感じる保護者75%以上を目指す。<br>○本校の学校教育目標やめざす子ども像を踏まえ、日々の教育に生かすことができたと回答する教職員80%以上を目指す。<br>○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員80%以上を目指す。                                     | ・一人一人の特性を丁寧に見取り、適切な指導・支援を行う。<br>・年度当初に、学校全体で柱になることを知る機会をもつ、日々の学習活動に取り入れ実践していく。<br>・個別的教育計画の研修会や校内研究、自立活動の研修等を通して理解を深め、日々の教育活動に取り入れていくように、担当する分掌で啓発、推進を行う。                                | A   | ・授業や教育活動を通して自分の子どもにできることが増えたと感じる保護者は99%に向上した。<br>・本校の教育理念を理解し、日々の教育に生かすことができたことと回答する教職員が98.2%に向上した。<br>・校内外の研修を通して「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員が97.3%であった。<br>・職員研修後のアンケートでも日々の支援に活かしたいという意見が多く、研修会で学んだことを、教育活動に取り入れられたり、その後の授業改善や支援の工夫に生かしたりしているようである。   | A  | ・数値目標を十分にクリアされていますし、学校を訪れた際、先生1人1人が生徒1人1人に寄り添って対応されている姿が印象的でA評価といたしました。<br>・保護者の99%が子どもにできることが増えたと感じており、児童生徒の個々の特性に応じた適切な指導がなされていると思う。<br>・自分の子どもにできることが増えたと感じる保護者が99%ということは、子ども本人に対しても自己肯定感や達成感を感じることができ、指導・支援が適切に提供されていると思う。<br>・生徒一人一人の障害特性の把握に努め、個々に応じた目標をたて、自立に向けた支援ができていいると思います。<br>・先生方も研修や勉強会を通して専門的な知識を身につけられており、学んだ事を支援に活かそうとする意欲の高さを感じられます。 |
|                      |        | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動                                   | ○安全、安心で楽しいと感じる学校生活を提供できていると回答する教職員85%以上を目指す。<br>○児童生徒が進んで登校し学校を楽しんでいると回答する保護者80%以上を目指す。  | ・児童生徒が楽しく充実した学校生活を送るよう、研修会や職員同士の学びを通して授業の改善、学校生活の改善に努めていく。<br>・児童生徒と職員の信頼関係を構築し、安心して関わることのできる雰囲気を作る。   | A   | ・安全、安心で楽しいと感じる学校生活を提供できていると回答する職員は96.6%に向上した。<br>・児童生徒が学校生活に楽しんで取り組んでいると回答する保護者は約95.3%だった。<br>・職員全体で児童生徒の様子を観察し、気になる点はクラスや学年で共有し、学部主事を中心に解決策や対応を検討した結果、改善や切り替えができるようになり、児童生徒は充実した学校生活を送ることができていると思われる。併せて、児童生徒と職員の信頼関係も構築され、安心して関わることのできる雰囲気も醸成されている。 | A  | ・こちらも数値目標を十分にクリアされていますし、職員が情報共有をしっかりと行い、一丸となって取り組まれている点でA評価といたしました。<br>・児童生徒と教職員との信頼関係が構築されており、保護者からの高い評価に繋がっていると思う。<br>・学年が上がっていくにつれて、友人との関係が増えてきて、同じ学年内でも4月より7月、9月より11月といった経験をしていく中に、信頼や対応に成長がみられる。先生方が、早期に情報を共有し、対応していただいたおかげで、安心して学校生活が送れていると思います。<br>・生徒たちは、先生方が提供される校内外での様々な活動を通して、学習面だけではなく、情誼面の発達、社会性や倫理観等を学ぶことができていると思います。                    |
|                      |        | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実  | ○いじめの基本方針の確認や研修会を実施していじめの定義等を再確認し、早期発見、早期対応ができるように努める。<br>○年2回のアンケート調査を行い問題の早期発見を目指す。<br>○保護者とともに連携して、いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進していることと回答する教職員85%以上を目指す。                       | ・いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進していることと回答する職員96.3%にのぼった。また、学校はいじめやトラブルの防止や早期対応に努めていると回答した保護者は95%であった。<br>・今年度は年2回のアンケート調査以外にも、生徒からの訴えや教師の気づき等で即座に対処したケースが多かったため、早期発見、早期対応ができ、保護者の回答に影響があったと考えられる。 | A   | ・「ほめて、育てた」と回答した職員は98.3%であった。また、「意欲的に授業に取り組むことが実感できる授業づくりができた」と回答する職員も98%であった。児童生徒一人一人の長所を活かし、授業研究や事例研究を各学部3回以上実施して授業改善に取り組み、児童生徒の様子からその成果を感じていると考える。  | A  | ・生徒の良い部分を見つけ伸ばそうとする先生方の姿にA評価といたしました。<br>・一人一人に対応した、長所を生かす指導が行われていると思う。<br>・先生方も「ほめて、育てた」と実感で98.3%ということは、定着しあたりまえに取り組んでもっている。子どもたちは幸せだと思える。<br>・生徒の能力に応じて達成できるような目標設定をすることは大事だし、その目標を達成するために「～しなさい」ではなく、「ほめて、育てた」ことは、生徒の自己肯定感を高める事にもつながったと思います。   |
| ●健康・体づくり             |        | ◎「望ましい生活習慣の形成」<br>●健康的な学校生活の提供   | ○規則正しい学校生活が提供できたと回答する教職員80%以上を目指す。<br>○健康に過ごせたと回答する保護者80%以上を目指す。   | ・見通しの持ちやすい週日課表を作成し、毎日同じ流れになる生活を提供する。<br>・児童生徒が健康診断等をスムーズに受診できるように、担任と協力して適切な手立てをとることで、疾病等の早期発見、治療へつなげる。<br>・保護者と連携して児童生徒の体調管理を行う。  | A   | ・規則正しい生活リズムが身につくように指導できたと回答した教職員は97.1%であった。<br>・児童生徒が健康に過ごせたと回答する保護者は97.2%であった。<br>・感染症の大きな広がりもなく、児童生徒はおおむね健康に過ごせたとと思われる。感染拡大防止対策も適切であったと思われる。健康的な学校生活が提供できた。   | A  | ・まだまだコロナやインフルエンザが流行している中に、感染症の大きな広がりなく健康的な学校生活を提供できていることA評価といたしました。<br>・保護者の多くが児童生徒が健康に過ごせたと回答しており、感染症の大きな広がりもなく、健康的な学校生活の提供が行われていると思う。<br>・安心して学校生活を送ることが基本中の基本であって、でもそれがいかに「難しい」との紙一重であるとも思い知らされる。<br>・見通しの持ちやすい週日課表を作るなどの工夫がされており、生徒達は同じリズムで生活ができるため、不安の軽減につながったと思います。  |
|                      |        | ●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実   | ○センター的機能について職員の意識を高め、何らかの役割を果たしていることと70%以上の教職員が答えられることを目指す。<br>○地域のコーディネーター対象の研修会を年2回開催する。   | ・職員にセンター的機能の理解を進めるよう機会あるごとに紹介したり学習の機会を提供したりする。<br>・地域のコーディネーターに向けた研修会を年2回計画し、案内をする。  | A   | ・本校職員が行ったセンター的機能の紹介を年2回行った。役割を果たしていること88.1%の職員が答えることができた。<br>・年2回の研修会を行った。11月は「愛着障害」についての研修を行い、校内の職員も地域の職員も関心が高く、地域の職員からの聴講生は56人で昨年よりも増えた。  | A  | ・数値目標をクリアされているためA評価といたしました。<br>・センター的機能について、職員の意識が昨年度より大きく向上しており(69.2%→88.1%)、今後も地域支援の充実と努めてほしい。<br>・支援の参考や助言をってもらうのは、とてもありがたい事です。研修会において、興味をもつて参加してもらったと質が上りますね。<br>・昨年度に比べセンター的機能についての職員の意識が18.9%も上がったのは、地域や職員の方に周知を行ったり、研修会を開催するなどの努力をされた結果だと思えます。  |
|                      |        | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進   | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>○事務的作業の効率化など働き方改革について自覚する。<br>○月時間外在校時間45時間超過者について全体の6%以下を目指す。  | ・管理職による呼びかけの継続と定時退勤推進デー等の設定<br>・分掌業務の精選と役割分担の見直し。<br>・学校の資産(保有している教材や物品)の積極的活用および人材の活用。<br>・会議への参加者の絞り込みや弾力的運用。<br>・事務的作業時間確保のための授業時間割等の見直し。   | A   | ・働き方改革を意識し、効率よい業務遂行ができたことと答えた職員は94.1%で、昨年度と比べ20%程向上した。<br>・時間外勤務が昨年度と比べて減少したと答えた職員は78.2%で、昨年度と比べ10%程向上した。<br>・時間外在校等時間の月平均は、前年度より2時間減の状況である(1月現在)。また、月時間外在校時間45時間超過者については、目標の6%以下(1月末現在：4.4%)の状況である。事務的作業の時間確保に努めることで、昨年度よりもさらに時間外在校時間等の縮減を図ることができた。  | A  | ・数値目標を大きくクリアされており、特に業務効率化につきましては20%という向上率にA評価といたしました。<br>・多くの職員が、時間外勤務が昨年度より削減したと回答されており、定時退勤日等の設定や業務効率化や年休取得の推進の効果が出ていると思う。<br>・今後も継続していき事業でもあり、教育界でも大きな注目点になります。今だけでなく、これからのためにも改善をよろしく願います。<br>・効率よい業務遂行が20%向上、時間外勤務の減少が10%向上という結果は素晴らしい、今後も継続して取り組んでいきたいです。  |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |        |  |  | 最終評価   |   | 学校関係者評価   |  |  |
| 評価項目                 | 重点取組内容 | 取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   | 具体的取組  | 達成度<br>(評価)   | 実施結果  | 評価   | 意見や提言  |
|                      |        |  |  |  | 達成度<br>(評価)   | 実施結果  | 評価   | 意見や提言  |
| ○進路指導とキャリア教育の充実      |        | ○児童・生徒の将来の自立と社会参加を意識して指導・支援をしていると回答する職員が80%以上を目指す。<br>○将来を考えるための情報提供がなされていることと回答する保護者が80%以上を目指す。 | ・自立と社会参加を意識して一人一人に応じた教育実践を行う。児童生徒に身につけさせたいことを個別的教育計画や授業計画の中に明確にして支援にあたる。<br>・本人、保護者が将来を描けるような説明会の機会を設ける。また、教職員のニーズに応じた進路研修を企画・運営する。<br>・進路指導への取り組みを資料やホームページを活用して周知理解を広げる。 | A  | 「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせて、児童・生徒の将来の自立と社会参加を意識して指導・支援をしていると回答した職員が99.1%で、「進路に関して必要な情報の提供」については「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した保護者は96.2%であった。ホームページ閲覧数も1月現在では平均250を超えた。今年度は写真付きの施設情報誌を全職員・全保護者に配布したことも、進路や地域生活を考える際に有効だったと考える。 | A   | ・数値目標を十分にクリアされているためA評価といたしました。引き続き生徒さんの自立と社会参加を意識した教育の実践、何卒よろしく願います。<br>・進路に関して必要な情報提供が行われていると思う。<br>・本校内の保護者だけでなく、社会の皆さんの注目を集めていると思います。開かれた学校だから、ちょっと見てみようと思ったり、行ってみようしたり。共存共生、これからとても大事なことで、自然と受け入れてもらえる。ありがたい事です。<br>・職員自らが職場体験先や進路先を発掘し、ホームページを利用して情報発信する等、たいへん努力をされており、生徒の将来に大いに貢献されていると思います。 |  |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

|                |  |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容8項目のうち、最終結果でのAは、すべての項目となる8項目であった。目指したところの達成はできているかと思われる。昨年度、B評価をつけた「効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実」については、今後も年度当初の説明や研修に加え、啓発活動としての取り組みを継続して行っていく必要があると思われる。また、「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」についても、引き続きあらゆる手立てを構築し、継続的に進めていく必要がある。</li> <li>次年度も現在の取り組みを継続しながらよりよい学校生活や学習環境の提供、職員の専門性の向上を図っていきたい。</li> </ul> |
|----------------|--|